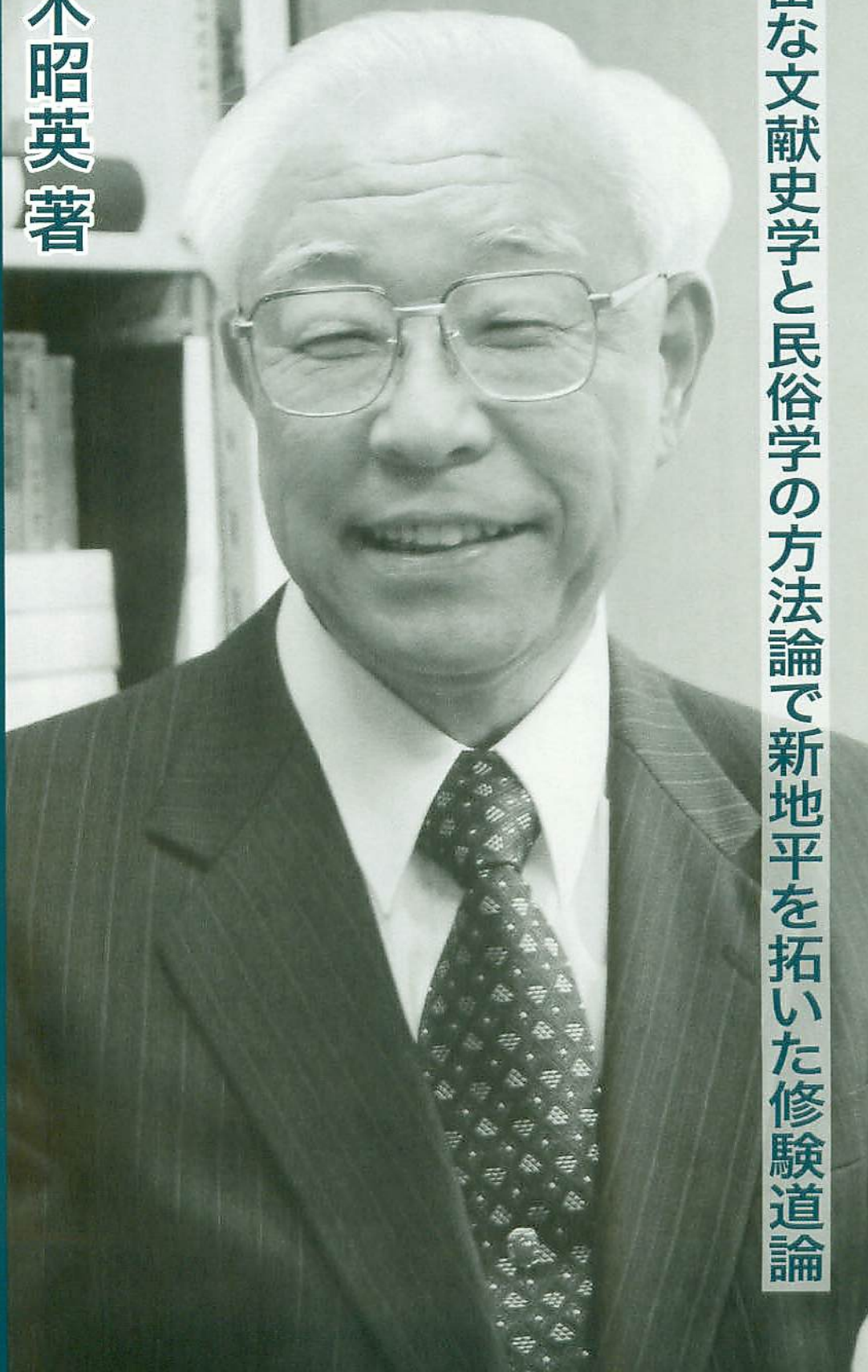


緻密な文献史学と民俗学の方法論で新地平を拓いた修験道論

鈴木昭英著



修験道歴史民俗論集

全3巻

法蔵館

幽谷森厳な深い山々に分け入り、精霊と向き合い神仏を感得する修験道は、一方で民間に根つき地域ごとにさまざまな展開を見せながら、人々の信仰や思想、生活の奥深くまで浸透していった。日本人の宗教観念の根底をなすともいわれる修験道の研究には、多角的視点が必要とされるのである。

鈴木昭英先生は緻密な文献学を古代史の三品彰英博士に学び、仏教民俗学の方法を五来重博士に学ばれた。「山の宗教」として宗教学・民俗学・歴史学などそれぞれの立場からはじまった修験道研究は、戦後を迎え、新たに問い直される時期が到来した。そのなかで、歴史学と民俗学の方法を両輪の輪のごとく自由自在に駆使する鈴木先生は希有な存在であった。徹底的な史料批判による緻密な史料解読は他の追随を許さぬ画期的研究成果を生み出した。日本における神仏習合の展開を修験者が担ったことをいち早く指摘し、奈良県大和郡山市の千点を超える松尾寺文書の発見と解読により、当山派の教団研究を一新させたことは周知のところであろう。また、垂迹曼荼羅から参詣曼荼羅への変遷を解き、観心十界図が熊野比丘尼によって持ち運ばれたことを初めて解明するなど、図像研究の画期となった。

その一方、地道な実地調査によつて、急速に姿を消しつつあった民間における修験道の実態と諸相の解明に労された。新潟をはじめ東北地方の神懸かりをともなう修験者による祭りや祈禱は、今は途絶え、唯一、鈴木先生の調査報告のみがその実態を伝えるばかりとなっている。本論集にそのような貴重な報告を収載することができたのは望外の喜びである。鈴木先生の研究の軌跡は、まさに戦後の修験道研究史そのものであるといえよう。

昨今、修験道に対する関心がたかまってきたといわれる。混迷する現代社会において、魂の始源への回帰をめざす修験道に、人々が心のよりどころを見いだしているのであろう。

このような時期に、鈴木昭英先生が半世紀に及ぶ研究成果を修験道歴史民俗論集全3巻として上梓されることは誠に意義深いといえる。本論集が一人でも多くの読者に迎えられ、未来への指針となることを願つてやまない。

二〇〇三年十月

法蔵館

全3巻内容

第1巻 修験教団の形成と展開

ISBN4-8318-7537-6 C3321

I 古代修験道と神仏習合

役小角伝承における韓国連広足
神宮寺の成立
神仏習合と山岳修行者
藏王権現と仏教

II 修験道教団の形成と展開

本山派の教団形成と組織
当山派の教団形成
当山派の教団組織と入峰
当山先達衆と醍醐寺三寶院
当山先達大和松尾寺の修験道
当山方別派の熊野方

III 修験道靈山と山麓集落の生活

大峯修験道と天川村

第2巻 霊山曼荼羅と修験巫俗

ISBN4-8318-7538-4 C3321

I 金峯・熊野信仰と霊山曼荼羅

熊野曼荼羅と修験信仰
金峯山信仰と吉野曼荼羅
熊野信仰と美術
金峯・熊野の霊山曼荼羅
社寺参詣曼荼羅の特性とその普及

II 山岳信仰・修験道と巫俗

山岳信仰・修験道とシャーマニズム
——護法飛びの考察をめぐって

麓山信仰と修験道

修験道と神がかり

八海山行者の憑祈禱・引座
祖庭禪師信仰の展開と八海山行者
マンチの巫俗と伝承

——中越地方における口寄せ巫女の生態
南魚沼のアガタ巫女

推薦のことば

神仏習合の原点を解明するユニークな成果

元駒澤大学長・宗教民俗学者

櫻井徳太郎



修験道は日本在来の山岳信仰を根とし、大陸伝来の仏教とくに密教と通俗道教などを摂取受容して創成された、特色ある日本宗教である。したがって両者を合わせて二で割ってつくられたように考えるのは大きな誤りである。十分に融合され独特な日本の宗教として定着したことを見落としてはならない。

この点を明確にするためには、所掲の教義經典の詮索に拘泥するだけでは真相は掴めない。何よりも峰入りの抖擻行に生命をかけた行軌や修行を微細に点検しなければならぬ。そして、そこで獲得した験力を駆使し地域社会で具体的にどのような救済機能を發揮したかを追及する必要がある。しかしその作業は口にするほど容易ではない。本論集の著者は、少ない文書史料を博搜発掘し、また民間の信仰伝承をもとめて臨地調査をこころみ、ついに未踏の難事業を成し遂げられた。まさしく畢生の大作である。

山岳宗教および修験道研究の先駆

國學院大学教授・宗教学者

宮家 準



今般旧知の研究仲間である鈴木昭英氏が半世紀近い修験道や山岳信仰などに関する諸論文をまとめて、法藏館から『修験道歴史民俗論集』全三巻を刊行されることになった。氏は大谷大学で五来重先生の指導のもとにこの分野の研究を始められ、現在同先生が設立された日本宗教学会代表を務められている。本論集の第一巻には、当山派修験の研究を一新させた諸論文、第二巻には画像研究の先駆をなす靈山曼荼羅に関する諸論文と、いち早くシャーマニズムの関係を指摘した諸論文、第三巻には長岡に帰られてからの八海山や長岡蔵王堂などの詳細な調査にもとづく諸論文が収められている。本論集を多くの人々がひもとくことによって、山岳宗教や修験道の研究が大きく進展することを期待したい。

第3巻 越後・佐渡の山岳修験

I 八海山の歴史と信仰の諸相

- 八海山信仰の展開
- 八海山信仰と八海講
- 八海山信仰の源流
- 八海山行者の木食・断食

II 越後・佐渡の山岳信仰

- 越後における峰の薬師信仰
- 風谷薬師と別当金剛院
- 刈羽黒姫山の神仏祭祀
- 巻機山の開山者・平賀政五郎明心
- 佐渡の山岳信仰——金北山・檀特山を中心に

III 長岡蔵王権現の信仰と祭祀

- 南北朝時代の六十六部納経と越後国蔵王堂
- 中世の蔵王権現信仰
- 蔵王権現六月大祭
- 王神および王神祭

著者略歴 (鈴木昭英・すずき しょうえい)

- 一九三二年 新潟県長岡市に生まれる
 - 一九五二年 大谷大学文学部入学
 - 一九五六年 大谷大学文学部史学科卒業
 - 一九五八年 大谷大学大学院文学研究科修士課程修了
 - 一九六一年 大谷大学大学院文学研究科博士課程満期退学
大谷大学助手
 - 一九六三年 大阪市立博物館技術吏員
 - 一九六五年 大阪市立博物館学芸員
 - 一九六九年 長岡市立科学博物館学芸員
 - 一九七三年 長岡市立科学博物館長
 - 一九七九年 長岡市福島町・長福寺住職
 - 一九八八年 長岡市教育委員会参事兼科学博物館長
 - 一九九二年 長岡市教育委員会・科学博物館長退職
長岡市郷土史料館長
 - 一九九七年 上越教育大学学校教育学部非常勤講師
新潟大学人文学部非常勤講師
- 現在 日本山岳修験学会理事、日本宗教学会代表ほか

予約受付中

二〇〇三年十月刊行開始

【第一回配本】二〇〇三年十月

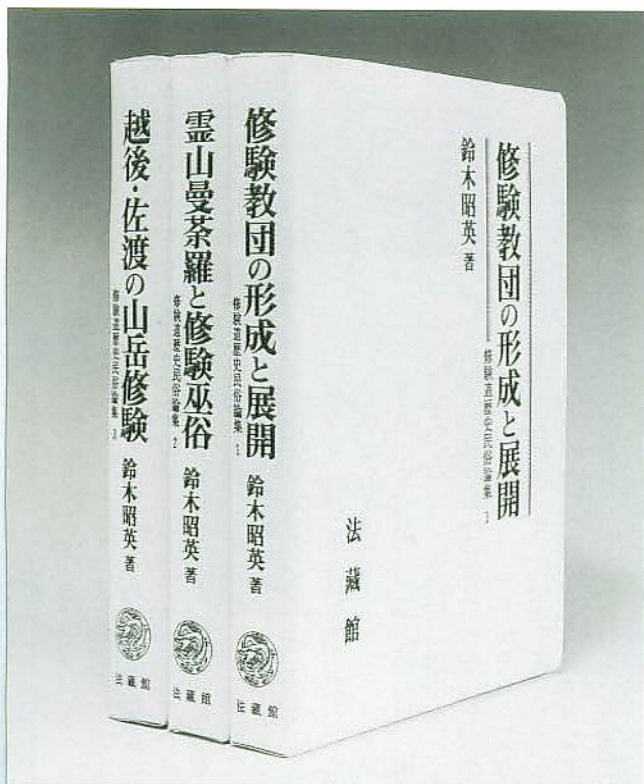
第1巻 修験教団の形成と展開 九九七五円

【第二回配本】二〇〇四年三月予定

第2巻 霊山曼荼羅と修験巫俗 予一一五〇円

【第三回配本】二〇〇四年六月予定

第3巻 越後・佐渡の山岳修験 予一二六〇円



〔特色〕

- 初期の代表的論稿から最新論文まで、半世紀に及ぶ研究成果を集大成。
- 著者の多数の研究業績をテーマごとに巻編成し、体系化した編集。
- 全巻にわたって著者の綿密な改稿をほどこした決定稿。
- 各巻末「あとがき」に、それぞれの論文執筆に至る動機とそれに関わる研究史を明らかにした。
- 多数の関連写真・図版を最大限に掲載し、読者の理解を助けた。

〔読者対象〕

- 修験道史、日本仏教史、宗教民俗、仏教文学、美術史、芸能史等の研究者・研究機関
- 大学研究室、公共図書館、学校図書館、寺院（修験・真言・天台）、神社など

〔体裁〕

A5判、上製函入、本文13級
各巻平均四〇〇頁

法藏館

〒160-0018 東京都千代田区正面通烏丸東入
TEL 03-5133-3333 FAX 03-5133-0858
表示価格は税込(5%)です
<http://www.hozokan.co.jp> info@hozokan.co.jp

0402102000

申込書

法藏館刊 修験道歴史民俗論集 〔全3巻〕

- ① 修験教団の形成と展開 ()冊
② 霊山曼荼羅と修験巫俗 ()冊
③ 越後・佐渡の山岳修験 ()冊
を申し込みます。

ご住所 〒

ご氏名

TEL

取扱書店